

2020. 11. 24～ マダカアワビ種苗生産開始

10月に約10ヶ月育てたアワビを放流してから約1ヶ月。また新しい命を育てる種苗生産の開始です。

長井海洋実習場に飼育室が完成してから一貫して実施しているのが、アワビの種苗生産です。なぜなら、実習場周辺の海は、アワビやサザエなどが多く棲むこともあり、長井にとってアワビは水産上とても重要な種であるからです。本校では、特に現在激減しているマダカアワビという種を生産しています。

まずは採卵。受精卵を得るところから始めます。雌雄別々に水槽に入れ、干出刺激や紫外線照射海水による刺激を与え、放精・放卵を誘発します。得られた受精卵は海水でよく洗い、幼生飼育水槽へ入れます。翌日には孵化しているので、幼生の状態を確認。採卵のタイミングや途中作業にミスがなければ、約4日浮遊生活で過ごした後、底生生活へ移ります。ちゃんと成長しているか、毎日、楽しみと不安が入り交じる思いで朝を迎えます。

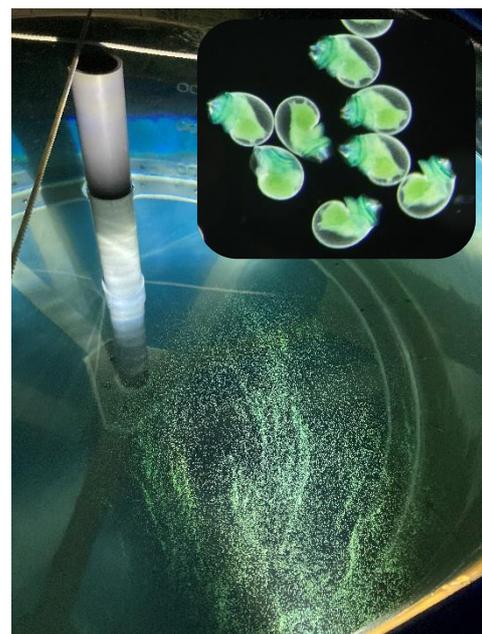


1. 朝、干出刺激後に紫外線照射海水(左上の機器にて)を流し込みます。

2. 1～2時間後、オス(写真_左)が放精し、続いてメス(写真_右)が緑色の卵を放ち、水槽内は一気に卵でいっぱいになります。



3. 受精卵は、幼生飼育水槽へ。
その頃には、卵は卵割をしています(写真_右下)。



4. 翌日、たくさんの幼生(写真_右上)が生まれていました。上から見ると、オーロラのようなようです。